令和8年度 全国学力・学習状況調査結果の概要と方策

利尻富士町教育委員会

本年度の全国学力・学習状況調査は、令和８年４月 23 日に小学校６年生を対象に国語・算数、中学校３年生を対象に国語・数学・英語（英語のみ４月 20～24 日）の教科で実施されました。以下、「結果の概要」と「今後の方策」について報告いたします。

Ⅰ 結果の概要

1 小学校6年生 ～国語は全国・全道を上回り、算数はほぼ同率となる～

【概要】利尻富士町の小学校の平均正答率は、国語・算数ともに昨年度と同率ですが、国語で全国平均を上回っています。

【国語】平均正答率は全国と比べて 3.1p 高い 64%です。全国平均は昨年度に比べ、5.9%下がっています。

【算数】平均正答率は全国と比べて 1.4p 低い 55%ですが、北海道を 1.0p 上回り昨年度よりも差が縮まりました。全国平均は昨年度に比べ、1.6p 下がっています。

＊下表（　　）内の数値は、７年度

国語	児童数	平均正答数	平均正答率(%)
利尻富士町	13 (14)	8.3/13(9.0/14)	64 (64)
北海道(公立)	33,169	7.8/13	60
全国(公立)	922,411	7.9/13	60.9

算数	児童数	平均正答数	平均正答率(%)
利尻富士町	13 (14)	8.8/16(8.8/14)	55 (55)
北海道(公立)	33,171	8.6/16	54
全国(公立)	922,778	9.0/16	56.4

2 中学校3年生 ～国語・数学ともに全国・全道を上回る。英語はIRTスコアでやや下回る。～

【概要】利尻富士町の中学校の平均正答率は、国語・数学ともに全国を上回る結果になりました。英語は全国をやや下回っています。

【国語】平均正答率は全国と比べて3.1p高い67%で、７年度よりも3.0p高い状況です。

【数学】平均正答率は全国と比べて7.0p高い64%で、７年度の45%を大幅に上回りました。

【英語】平均正答数は全国と同程度の4.4です。６年度の英語の実施はありません（５年度実施）。

＊下表（　　）内の数値は、７年度

国語	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)
利尻富士町	**20** (7)	**10.0/15** (9.0/14)	**67** (64)
北海道(公立)	32,596	9.5/15	63
全国(公立)	841,873	9.6/15	63.9

数学	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)
利尻富士町	**20** (7)	**10.2/16** (8.8/14)	**64** (45)
北海道(公立)	32,580	8.8/16	55
全国(公立)	842,491	9.1/16	57.0

英語	生徒数	平均正答数	平均IRTスコア
利尻富士町	**21**	**4.4/9**	**485**
北海道(公立)	32,620	4.2/9	490
全国(公立)	839,203	4.5/9	499

＊IRT：国際的な学力検査や試験で採用されている理論で、異なる問題から構成される試験や調査の結果を、同じ尺度で比較できるものです。

Ⅱ　問題別調査結果

1　小学校　国語

（１）「知識及び技能」の結果

○「言葉の特徴や使い方に関する事項」の平均正答率は 73.1%で、全国より 6.3p 高い結果です。

（２）「思考力・判断力・表現力等」の結果

○「読むこと」の平均正答率は 76.9%で、全国より 11p 高い結果です。７年度は同率だったので改善されています。

△「話すこと・聞くこと」の平均正答率は 64.1%で、全国より 1.7p 低い結果です。「書くこと」の平均正答率は 46.2%で、全国とほぼ同率です。

分　類		区　分	対象問題数	平均正答率(%)		
				利尻富士町	北海道	全国
全体の平均正答率			13	64	60	60.9
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	4	73.1	65.9	66.8
		(2)情報の扱い方に関する事項	2	50.0	51.0	52.3
		(3)我が国の言語文化に関する事項	0			
	思考力、判断力、表現力等	A　話すこと・聞くこと	3	64.1	64.4	65.8
		B　書くこと	2	46.2	43.2	45.7
		C　読むこと	2	76.9	65.0	65.9
評価の観点		知識・技能	6	65.4	60.9	62.0
		思考・判断・表現	7	62.6	58.5	60.1

平均正答率の高かった問題と低かった問題

問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)			無解答率(%)		
		利尻富士町	北海道	全国	利尻富士町	北海道	全国
知識・技能 【花山さんの文章の一部】の下線部アを、漢字を使って書き直す （みじか - い）	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる	84.6	77.9	80.0	0.0	4.2	4.1
【花山さんの文章の一部】の下線部①に続く文として適切なものを選択する	考えとそれを支える理由や事例など情報と情報との関係について理解することができるかどうかをみる	30.8	48.7	48.9	0.0	0.8	1.1
読むこと 【文章】を読んで考えたことを、自分の経験と結び付けてまとめて書く	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる	92.3	76.3	76.4	7.7	15.4	15.6
話すこと・聞くこと 【構成メモ】の工夫として適切なものを選択する	相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えることができるかどうかをみる	84.6	71.9	73.9	15.4	0.5	0.8

２ 小学校 算数

（１）「領域別」の結果

○「変化と関係」の平均正答率が 51.3%で、全国を 10.2p 上回りました。

●「数と計算」と「測定」を中心に全国との差が顕著となっています。

（２）「評価の観点」の結果

●「知識・技能」は全国と同程度ですが、「思考・判断・表現」の平均正答率は全国を 5.0p 下回る 40.4%となっています。

分　類	区　分	対象問題数	平均正答率(%)		
			利尻富士町	北海道	全国
全体の平均正答率		16	55	54	56.4
学習指導要領の領域	A　数と計算	8	53.8	58.2	**61.1**
	B　図形	4	55.8	51.8	55.3
	C　測定	1	61.5	76.4	**78.1**
	C　変化と関係	3	**51.3**	38.1	41.1
	D　データの活用	4	44.2	45.6	**48.6**
評価の観点	知識・技能	12	60.3	57.4	60.1
	思考・判断・表現	4	40.4	42.5	45.4

平均正答率の高かった問題と低かった問題

問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)			無解答率(%)		
		利尻富士町	北海道	全国	利尻富士町	北海道	全国
図形 直方体の箱の形の六つの面のうち、四つの面が示されたとき、残りの二つの面の縦と横の長さを書く	直方体の箱の形を構成する面について理解しているかどうかをみる	**76.9**	62.3	63.0	0.0	1.8	1.7
変化と関係 ペンギンがいる二つの広場の混み具合を求める式の意味について、正しいものを選ぶ	単位量当たりの大きさを求める除法の式の意味を理解し、その商から二つの広場のどちらの方が混んでいるのかについて判断できるかどうかをみる	**61.5**	36.4	36.1	0.0	1.6	1.6
数と計算、図形、データの活用 四つの箱のまとめ方によって宅配便の送料に違いがあるかを調べるために、直方体イの送料の求め方とその答えを書く	日常生活の問題を解決するために、図形を構成する要素に着目して直方体の三つの辺の長さを捉え、示された条件を基に、調べたい数量の求め方を数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	30.8	40.2	**45.2**	0.0	6.6	5.8
数と計算 ７／３と７／４のどちらの方が大きいかを判断し、そのわけを書く	異分母の分数の大小を判断し、その理由を数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	23.1	40.0	**44.0**	7.7	3.4	3.2

4 中学校 国語

（１）「知識及び技能」の結果

○「言葉の特徴や使い方に関する事項」の平均正答率は 66.0%で、全国より 3.0p 高い結果です。

（２）「思考力・判断力・表現力等」の結果

○「書くこと」の平均正答率は 78.3%で、全国よりも 10.9p 上回っています。

分　類		区　分	対象問題数	平均正答率(%)		
				利尻富士町	北海道	全国
全体			15	**67**	63	63.9
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	5	**66.0**	61.9	63.0
		(2) 情報の扱い方に関する事項	1	65.0	69.0	70.4
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0			
	思考力、判断力、表現力等	A　話すこと・聞くこと	3	61.7	63.1	63.9
		B　書くこと	3	**78.3**	68.2	67.4
		C　読むこと	3	**61.7**	59.0	59.7
評価の観点		知識・技能	6	**65.8**	63.1	64.2
		思考・判断・表現	9	**67.2**	63.4	63.7

平均正答率の高かった問題と低かった問題

問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)			無解答率(%)		
		利尻富士町	北海道	全国	利尻富士町	北海道	全国
書くこと 文章の展開の意図を説明したものとして適切なものを選択する	段落相互の関係を明確にし、文章の展開を工夫することができるかどうかをみる	**85.0**	64.9	65.0	0.0	0.4	0.5
読むこと 二つの例文を比べながら、擬態語「きっぱり」が表している具体的な様子と擬態語の効果を書く	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができるかどうかをみる	**50.0**	38.8	38.9	15.0	20.7	18.6
話すこと・聞くこと 話合いを受けてどのような意見を述べるか、自分の考えを書く	互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめることができるかどうかをみる	40.0	50.5	**52.7**	10.0	16.0	14.7
知識・技能 文書作成ソフトに表示された意味と用例を参考にして、漢字を書き、漢字の組合せとして適切なものを選択する（とる）	文脈に即して正しく漢字を書き、語句を文章の中で使うことができるかどうかをみる	30.0	37.5	**39.8**	0.0	0.2	0.3

５ 中学校 数学

（１）「領域別」の結果

○「数と式」の平均正答率が 76.0%で、全国を 8.2p 上回り、「関数」と「データの活用」の平均正答率が 65.0%で、全国をそれぞれ 10.2p、11.5p 上回っています。

（２）「評価の観点」の結果

○「知識・技能」の平均正答率 66.7%は、全国を 3.7p、「思考・判断・表現」の平均正答率 55.0%は、全国を 15.9p 上回っています。

分　類	区　分	対象問題数	平均正答率(%)		
			利尻富士町	北海道	全国
全体		16	64	55	57.0
学習指導要領の領域	A　数と式	5	76.0	66.2	67.8
	B　図形	4	46.3	47.9	48.7
	C　関数	3	65.0	50.7	54.8
	D　データの活用	4	65.0	51.3	53.5
評価の観点	知識・技能	12	66.7	60.9	63.0
	思考・判断・表現	4	55.0	37.3	39.1

平均正答率の高かった問題と低かった問題

問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)			無解答率(%)		
		利尻富士町	北海道	全国	利尻富士町	北海道	全国
数と式 手順にしたがってできたＡとＢについて、Ａ－Ｂの値がどんな数になるかを、選んだ２数の差に着目して説明する	統合的・発展的に考え、事柄の特徴を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる	60.0	41.5	44.6	10.1	29.9	26.5
関数 データ量が１０００ＭＢになるときの動画の時間がおよそ何秒になるかを求める方法を説明する	数学的に表現したことを事象に即して解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる	60.0	31.9	33.9	20.0	42.9	39.6
データの活用 「就寝時刻が２３時より前の生徒と比べて、２３時以降の生徒の方が睡眠時間が短い傾向にある」と主張できる理由を、悠真さんが調べたことの二つの度数分布多角形の形と位置を比較して説明する	データの傾向を的確に捉え、判断の理由を度数分布多角形の特徴を基に説明することができるかどうかをみる	60.0	30.7	31.9	15.0	33.2	28.9
図形 ∠ＡＯＢの大きさがａ°のとき、∠ＰＯＢの大きさをａを用いた式で書く	具体的な事象において、考察の対象となる角を的確に捉えることができるかどうかをみる	55.0	60.3	62.5	10.0	10.4	9.0

６ 中学校　英語

（１）「区分・技能別」の結果

○「聞くこと」については、全国・全道を上回る傾向にあります。

△「読むこと・書くこと」「話すこと」については、全国・全道並みです。

（２）「評価の観点」の結果

○ 全体に「知識・技能」の正答率が高く、「思考・判断・表現」はバラつきがあります。

分　類	区　分・技能別	対象問題数	平均正答数		
			利尻富士町	北海道	全国
全体		9	**4.4**	4.2	4.5
学習指導要領の領域	聞くこと	2	**1.4**	1.2	1.2
	読むこと・書くこと	5	2.5	2.4	2.6
	話すこと	2	**0.6**	0.6	0.7

問題別集計結果

評価の観点	問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)			無解答率(%)		
			利尻富士町	北海道	全国	利尻富士町	北海道	全国
知識・技能	【書くこと】 与えられた情報に基づいて、留学生の昨日の出来事を説明する英文を書く	音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる	52.4	47.2	52.7	0.0	3.2	3.3
	【聞くこと】 注文の場面での店員と客の会話を聞き、客が注文したものを選択する		**66.7**	60.0	60.2	0.0	0.1	0.2
	【話すこと】 電話でのやり取りの中で、遊ぶ約束をしている留学生に明日の天気を伝える		**50.0**	40.4	42.3	10.0	13.5	9.2
思考・判断・表現	【聞くこと】 住みやすいまちづくりについての発表を聞き、話し手が最も伝えたいことを選択する	社会的な話題について、話を聞き、要点を捉えることができるかどうかをみる	**71.4**	55.5	55.6	0	0.3	0.2
	【話すこと】 自分の好きな人物を１人取り上げ、好きな理由を話す	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容を話すことができるかどうかをみる	**80.0**	44.6	48.0	0.0	16.7	12.1
	【話すこと】 学校生活をよりよくする方法に関して聞いたことについて、考えとその理由を話す	社会的な話題に関して聞いたことについて、考えとその理由を話すことができるかどうかをみる	10.0	22.3	**25.8**	25.0	24.2	17.0

Ⅲ 児童・生徒質問調査の結果

1 自分自身のこと

（1） 主体性

回答１＋２のプラス評価は、小中ともに全国を上回っています。

これまでに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	小学校(%)		中学校(%)	
	利尻富士町	全国	利尻富士町	全国
1　当てはまる	30.8	28.3	33.3	27.9
2　どちらかといえば、当てはまる	61.5	49.3	52.4	51.8
3　どちらかといえば、当てはまらない	0	17.4	14.3	17.4
4　当てはまらない	0	2.8	0	2.9

（2） 自己肯定感

回答１＋２のプラス評価は、小学校では 69.3%で、全国の 85.6%より低いですが、中学校では全国並みです。

自分には、よいところがあると思いますか	小学校(%)		中学校(%)	
	利尻富士町	全国	利尻富士町	全国
1　当てはまる	30.8	43.6	28.6	41.0
2　どちらかといえば、当てはまる	38.5	42.0	57.1	43.0
3　どちらかといえば、当てはまらない	7.7	9.8	14.3	11.3
4　当てはまらない	23.1	4.3	0	4.5

（3） 夢実現

回答１＋２のプラス評価は、小学校では 84.7%、中学校では 71.5%で、全国を上回っています。

将来の夢や目標を持っていますか	小学校(%)		中学校(%)	
	利尻富士町	全国	利尻富士町	全国
1　当てはまる	46.2	58.6	42.9	37.4
2　どちらかといえば、当てはまる	38.5	23.2	28.6	30.2
3　どちらかといえば、当てはまらない	7.7	10.8	19.0	20.5
4　当てはまらない	7.7	6.8	9.5	11.5

（4） 向上心

回答１＋２のプラス評価は、小学校では 76.9%で全国をやや下回っていますが、中学校では 80.9%で、全国のをやや上回っています。

分からないことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	小学校(%)		中学校(%)	
	利尻富士町	全国	利尻富士町	全国
1　できている	23.1	28.7	33.3	27.4
2　どちらかといえば、できている	53.8	50.7	47.6	50.8
3　どちらかといえば、できていない	23.1	17.1	19.0	18.6
4　できていない	0	2.7	0	2.7

２ 人との関わり

（１）多様性

回答１＋２のプラス評価は、小学校では 92.3%、中学校では 95.3%といずれも９割以上を占め、全国よりも高くなっています。

あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか	小学校(%)		中学校(%)	
	利尻富士町	全国	利尻富士町	全国
１　当てはまる	15.4	35.2	66.7	34.2
２　どちらかといえば、当てはまる	76.9	46.3	28.6	50.3
３　どちらかといえば、当てはまらない	7.7	13.7	4.8	11.6
４　当てはまらない	0	3.5	0	3.0

（２）協働性

回答１＋２のプラス評価は、小学校・中学校ともに 100%で、協働性を重視した学校活動に取り組んでいる様子が反映されています。

授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか	小学校(%)		中学校(%)	
	利尻富士町	全国	利尻富士町	全国
１　当てはまる	23.1	52.7	61.9	49.0
２　どちらかといえば、当てはまる	76.9	38.7	38.1	43.4
３　どちらかといえば、当てはまらない	0	5.5	0	5.0
４　当てはまらない	0	1.3	0	1.4

（３）学校生活への意欲

回答１＋２のプラス評価は、小学校では 38.5%で、全国の 85.7%を大きく下回る低い数値を示し、３＋４のマイナス評価については 61.6%となっています。中学校では、回答１＋２のプラス評価が 85.8%で、全国と同程度となっています。

学校に行くのは楽しいと思いますか	小学校(%)		中学校(%)	
	利尻富士町	全国	利尻富士町	全国
１　当てはまる	15.4	48.0	42.9	45.2
２　どちらかといえば、当てはまる	23.1	37.7	42.9	40.2
３　どちらかといえば、当てはまらない	46.2	9.6	14.3	10.1
４　当てはまらない	15.4	4.1	0	4.1

３ 地域との関わり

（１）学校と地域の関係

本質問については、８年度は集計されていません。

地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがありますか（習い事は除く）	小学校(%)		中学校(%)	
	利尻富士町	全国	利尻富士町	全国
１　当てはまる				
２　どちらかといえば、当てはまる				
３　どちらかといえば、当てはまらない				
４　当てはまらない				

（２）地域への参画意欲

回答１＋２のプラス評価は、小学校では 69.2%で、全国の 81.1%を下回っていますが、中学校では 76.2%で、全国の 72.3%を上回っています。

地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	小学校(%)		中学校(%)	
	利尻富士町	全国	利尻富士町	全国
１　当てはまる	7.7	31.9	9.5	22.1
２　どちらかといえば、当てはまる	61.5	48.2	66.7	50.2
３　どちらかといえば、当てはまらない	30.8	15.9	23.8	21.2
４　当てはまらない	0	3.9	0	6.4

4 ICTの活用

回答１＋２の「ほぼ毎日」が、小学校では 53.9%で、全国の 43.0%を上回っており、中学校でも 85.7%と全国の 55.1%を大幅に上回っています。小学校では、「週３日以上からほぼ毎日」までのトータルが 84.7%で、７年度（71.4%）よりも活用が図られています。

家庭等、校外での活用については、中学校の「３０分以上～１時間」で 33.3%と、全国の 18.0%のほぼ倍となっていますが、１時間以上は皆無です。７年度は皆無でしたが、小中ともに、「全くしない」児童生徒もいます。

これまでに受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使用しましたか	小学校(%)		中学校(%)	
	利尻富士町	全国	利尻富士町	全国
１　ほぼ毎日（１日に複数の授業）	15.4	20.5	57.1	29.3
２　ほぼ毎日（１日に１回の授業）	38.5	22.5	28.6	25.8
３　週３回以上	30.8	25.8	9.5	23.1
４　週１回以上	7.7	19.1	4.8	14.7
５　月１回以上	0	8.1	0	4.6
６　月１回未満	7.7	3.4	0	2.1

学校の授業時間以外に、月曜日から金曜日、１日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどの ICT 機器を勉強のために使っていますか	小学校(%)		中学校(%)	
	利尻富士町	全国	利尻富士町	全国
１　３時間以上	0	2.1	0	1.7
２　２時間以上、３時間より少ない	0	2.8	0	2.6
３　１時間以上、２時間より少ない	7.7	8.5	0	7.7
４　３０分以上、１時間より少ない	15.4	21.2	33.3	18.0
５　３０分より少ない	30.8	31.2	38.1	32.4
６　全くしない	15.4	23.3	14.3	26.0

5 望ましい生活習慣・学習習慣の確立

（１）規則正しい生活習慣

小学校・中学校ともに、規則的な生活習慣が身についています。

朝食を毎日食べていますか	小学校(%)		中学校(%)	
	利尻富士町	全国	利尻富士町	全国
1　している	92.3	83.1	71.4	78.4
2　どちらかといえば、している	7.7	10.2	19.0	12.5
3　どちらかといえば、していない	0	4.9	4.8	6.1
4　していない	0	1.6	4.8	2.8

毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	小学校(%)		中学校(%)	
	利尻富士町	全国	利尻富士町	全国
1　している	46.2	40.5	33.3	34.9
2　どちらかといえば、している	53.8	42.3	57.1	45.6
3　どちらかといえば、していない	0	14.3	4.8	16.4
4　していない	0	2.5	4.8	2.9

（２）家庭学習

家庭での勉強時間が１時間以上の割合は、小学校では 21.4%で、全国の 54%を大幅に下回り、中学校では 50%で、全国の 61.6%を下回っています。

学校の授業時間以外に、月曜日から金曜日、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか	小学校(%)		中学校(%)	
	利尻富士町	全国	利尻富士町	全国
1　３時間以上	7.7	10.5	0	8.9
2　２時間以上、３時間より少ない	0	11.1	14.3	21.2
3　１時間以上、２時間より少ない	23.1	28.3	33.3	31.5
4　３０分以上、１時間より少ない	61.5	29.1	33.3	19.5
5　３０分より少ない	7.7	14.5	19.0	11.5
6　全くしない	0	5.7	0	6.9

家庭での勉強時間が「３０分以上、１時間より少ない」の割合は、小学校では 38.5%で、全国の 21.9%を上回り、１時間以上の割合は、中学校では 33.4%で、全国の 24.8%を上回っています。小中学校ともに、「全くしない」は皆無です。

土曜日や日曜日など学校が休みの日に、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか	小学校(%)		中学校(%)	
	利尻富士町	全国	利尻富士町	全国
1　３時間以上	0	6.3	0	5.1
2　２時間以上、３時間より少ない	0	3.3	4.8	8.0
3　１時間以上、２時間より少ない	7.7	7.5	28.6	16.8
4　３０分以上、１時間より少ない	38.5	21.9	14.3	22.6
5　３０分より少ない	23.1	32.7	33.3	21.4
6　全くしない	0	16.0	0	13.4

Ⅳ 結果をふまえた今後の方策

教育委員会では、各校の分析と取り組みについて校長会や教頭会で協議し、今回の結果をふまえて、小中一貫教育を軸とした以下のような取り組みを進めていきます。

1 教科指導･学力向上に向けた具体的方策

(1) 国語：知識の活用と「論理的思考・表現力」「対話力」の育成

・知識・技能の意識的活用と記述の型（テンプレート）の定着（小学校）

高い正答率を示した漢字や語句の知識を、単なる暗記にとどめず、日常の読解・記述活動の中で意識的に使う場を設定します。

記述問題に課題が見られる児童に対しては、「引用・根拠 → 自分の考え・経験 → 結論」という文章構成の基本テンプレート（「私は～と思います。なぜなら～だからです」等）を用いた指導を徹底し、書き方の型を身につけさせます。また、推敲や児童同士の読み合い（相互チェック）を通して文末のねじれや誤字を防ぎます。

・「話すこと・聞くこと」におけるメタ認知（自分を客観視する力）と話し合いの質の向上（中学校）

高い「書くこと」の意欲・能力を維持しつつ、話し合いの展開や他者の発言意図を正確に捉える指導を強化します。

単に意見を交わすだけでなく、「互いの立場を尊重しながら結論を導く話し合い」の活動を設定し、自分の発言が全体の中でどのような役割を果たしているかを俯瞰させる指導を行います。

・読書習慣の確立

朝読書の時間の確保や、学校図書室等の活用を推進し、日常的に本に触れる機会と環境を整備します。

(2) 算数・数学：基礎の徹底定着と「説明の言語化」「個別最適な学び」の推進

・AI ドリル（キュビナ）を活用した「さかのぼり学習」と確実な定着（小・中）

小中学校におけるつまずき（分数の構造、概数、割合、体積、反比例など）を特定し、キュビナを活用して個々の習熟度に応じた反復練習や復習を徹底します。

・体験的な学びと「なぜそうなるか」の言語化・モデル化

小学校では、抽象的な概念に対して具体物・モデル・数直線等を用いた「体感を伴う理解」を促します。

解答の正誤だけでなく、「問題が何を求めているのか」「なぜその式になるのか」の手順や理由を、言葉・図・式を用いて他者に説明し合う場面を日常的に設定します。高い思考力を示す問題（関数や図形等）の解決プロセスを言語化させることで、概念の誤認や単純なミスを防ぎます。

・個に応じた指導・少人数指導と「学び合い」の充実

少人数や児童・生徒間の個人差が大きい実態を踏まえ、一斉指導に偏らず、習熟度に応じた個

別の補習やヒントカードの提示を行います。

児童・生徒同士の「学び合い」を取り入れ、得意な生徒が解き方を説明することで深い理解へつなげ、苦手な生徒にはスモールステップで達成感（「できた」「分かった」）を持たせます。

(3) 英語（中学校）：基礎語彙・文法の再定着と発信力（話す・書く）の強化

・既習事項の復習と語順の定着

新単元の導入時に、中学１年等で習った既習の文法・単語をあわせて振り返る構成とし、基礎知識の抜け落ちを補強します。

英語の基本語順を再確認し、教科書終了後や日常の帯時間等で「一から自分の意見や文章を組み立てて話す・書く」表現活動を採り入れ、無解答率の低下を図ります。

2 児童･生徒質問調査に基づいた環境づくりと心･習慣の育成

(1) 「失敗しても安心できる」学級経営と自己有用感・自己肯定感の向上

・心理的安全性のある場づくり

「人と違う意見を言っても否定されない」「多様な考えを認め合う」という学級ルールを徹底し、安心して発言・質問ができる雰囲気を構築します。

・過程（プロセス）と貢献の「価値づけ・言語化」

テストの点数や結果だけでなく、児童生徒の「思考のプロセス」「工夫した点」「友達への貢献」を教員や周囲が具体的に言葉にして認め、褒める機会（スモールステップの承認）を増やします。

・主体的な役割と達成感の付与

学校行事や特別活動において児童生徒の意見を反映した企画・運営を行うとともに、地域の大人との関わりや役割づくり（学校支援活動）を通して、「自分は役に立っている」「学校は自分たちがつくる場だ」という自己有用感・所属感を育みます。

(2) 家庭・地域と連携した「学習・生活習慣」の確立

・「まとめと振り返り」による授業と家庭学習の接続

毎時間の授業終盤に「本時の学びの振り返り」を行い、自分が分かったこと・次に調べるべきことを整理させることで、家庭での自学自習へ具体的につなげます。

タブレットを活用した効果的な課題配信と、従来の紙での学習スタイルをバランスよく組み合わせて家庭学習の定着を図ります。

・家庭への啓発と「背中を押す声かけ」の推進

学校だよりや学級通信等を通じ、日頃の学校での様子を共有するとともに、家庭に対して「今日はどんなことをしたの？」といった温かい関心と見守り、励ましの声かけを依頼します。

3. 小中連携･教員研修および指導体制の強化

・小中一貫教育を軸とした授業改善・事例共有

中学校における効果的な授業事例（生徒の思考を止めない工夫、少人数指導）や、小学校における個に応じた指導の手立てを小中間の合同研修で共有し、教員相互の指導力向上を図ります。

・「一人ひとりの学びをデザインできる教師」への意識改革

児童生徒それぞれの認知特性（視覚優位・言語優位等）や実生活体験の違いを正しく理解し、単一の一斉指導から「個に応じた指導・個別最適な学び」を提供できるよう、教職員の意識改革と研修を一層深めます。